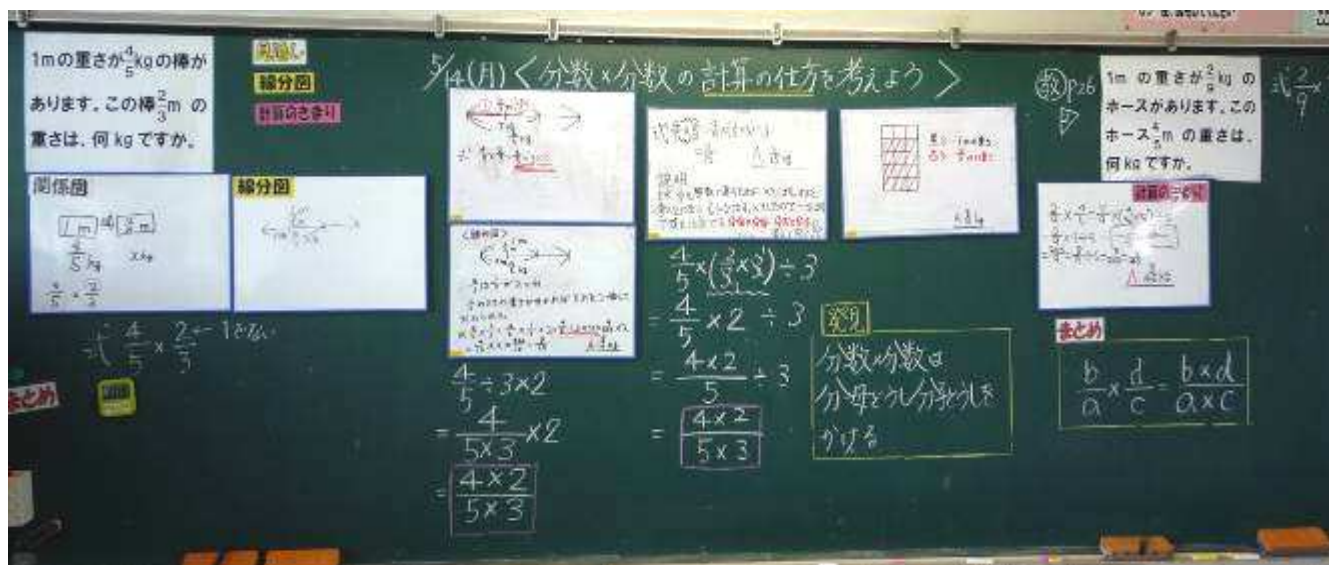


はにい

一枚の板書

平成24年6月25日



6年生の算数。教員4年目の山本先生の板書です。

- ・ 一時間の学びが黑板一枚にまとめられていて、わかりやすい。
- ・ 中央に、本時のめあてが大きく書かれていて明確。
- ・ 問題文（左端）が事前に用意されたシートで見やすい。
- ・ その下。問題を把握させるために、まず関係図を考えさせている。
- ・ 次に、解決に向けての「見通し」を考えさせている。
- ・ その「見通し」として、「線分図」「計算のきまり」が提示されている。
- ・ 中央で子どもの書いた多様な考え方が発表されている。
- ・ 重要な気づきの場面では、教師がわかりやすく式を板書している。
- ・ 一つの問題から得られた気づきを、まず「発見」としてくくっている。
- ・ そしてもう一問考えさせてから、その気づきを「まとめ」として式化している。

見たままの感想を書いてみただけですが、みなさんは、この板書からどんなことを学びますか？他にも見やすさとか、途中式の書き方とか。

実は昨年も、山本先生の授業を参観しましたが、すでにその頃からこのような一時間の全体が見渡せる板書をしていました。

ところで、この学校では、どの先生方もこのような板書をしています。どのクラスも一時間のまとまりを大切にされた問題解決の授業を工夫しています。

そのあたりを校長先生にインタビューしてみました。

「本校では、今年は4月から研究授業をやっているんですよ。」

—4月？まだ、学級づくりの最中でしょう。

「4月はまだ無理だ、というのは、子どもにとってどうなんですか？学級づくりの時に言うのに意義があるんです。」

—なるほど。4月には4月の授業研究、6月には6月の授業研究と、整った授業を見せるのが研究授業ではない、と。

「研究は、確かな研究の方向性の上で、議論百出のところまで磨かれていくんです。そのためには、それだけの材料を用意しておくことです。」

—はあ。それで、去年もやったのに、また今年度も研究発表会をやることにした・・・

「こうしたことが、保護者の信頼になっていくんです。」

その研究協議。

「線分図を使って説明する子が少なかったような・・・。」

「前時までの線分図の指導で、子どもたちは図を使うよさを実感できていなかったんだよ。」

「よさかあ。なるほど。」

「確かに図のよさを実感した子は、今日も線分図で説明していましたねえ。」

議論百出。

学び続ける教師たちです。



かながわ元気な学校づくり通信 『はにいい』とは、

学校が元気になるように・・・

先生の仕事を受ける

学校に携わる大人たちがしていることを受ける

そして、もちろん子どもたちの育ちを受取る

そんな、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合しましょう。

専用メールアドレス：inochi4027@pref.kanagawa.jp

ホームページ： 近日公開